

平成14年度再評価審査委員会（事後評価）評価箇所一覧表

事業名	市町村名	全体事業概要と目的	全体事業費 百万円	採択年度	完了年度	事業の効果	委員会意見	委員会意見への対応
治山事業	勢和村	台風に伴う豪雨による山腹崩壊を復旧する。 山腹工 0.18ha 土留工 3基 暗渠を設置し、浸透水を除去し木筋工とむしる伏せ工により、早期の緑化を促進する。	58.943	H 6 年度	H 7 年度	直接効果) 人家、農地、道路などの被害軽減効果 B/C 1.37  間接的効果) 工事に伴う植栽木の成長により、5トンの二酸化炭素の固定や水源涵養機能が向上した。	二酸化炭素の固定の効果を土木工事で計上することは無理ではないか。 効果測定で、代替にダムの効果を用いないで、他の方法を検討されたい。 評価は予測値でなく、実測値を把握し、効果を検証すべきではないか。	森林の持つ二酸化炭素の吸収効果を便益として計上していますが、今後は工事中用機械が排出する二酸化炭素の排出量も考慮して検討していきます。 洪水防止・貯水便益の効果算出に当たり、国のマニュアルに沿って利水ダム等で代替していますが、ダム以外で適切な効果が算出できるものについては、県独自で検討していきます。 山腹崩壊等の効果測定については、非常に困難な面がありますが、実測可能なものについては実測し、データの集積を行い効果を検証していきます。
	伊勢市	農地や宅地などの浸水被害を防止するため、排水機場を増設する。 1500mm排水ポンプ 1台	680.274	H 5 年度	H 9 年度	直接的効果) 1/20確率雨量の洪水防止効果 B/C 1.32 平成9年度から13年度において、農作物被害、その他宅地の被害は認められなかった。 通学、通勤に利用されている道路の冠水がなくなり、支障なく通行できるようになった。 間接的効果) 洪水被害が無くなり、大型店舗が進出し、地域の活性化に寄与している。	防災事業の評価は実測で被害がなければ効果的であり、内部でやればよいのでは	湛水防除等防災事業の効果確認のためには、施設が計画どおり機能するかどうかを確認する必要があります。このため、雨量、ポンプの運転等にかかるデータを客観的に検証します。 また、アンケート調査を行うことによって、地域住民の意識の高揚と協力が期待でき、さらに的確な運転管理へと反映していくことができます。 このことから、事業の効率性、事業実施の透明性の一層の向上を図るため、事後評価は必要と考えます。
道路事業	龜山市	市街地に流入している通過交通を分離し、混雑を緩和し、市内の地域開発を適切に誘導し、経済発展と都市の均衡ある発展を目的とする。 延長 5.1km	約5,900	S 6 0 年度	H 9 年度	直接的効果) 交通混雑の緩和 走行時間の短縮 定時性の確保 B/C 4.1  間接的効果) 小公園の設置による憩いの場の整備	事業実施が同種事業や次の事業にどう反映させるかを意識して評価を行うこと。 事業の目的を具体的に提示してこれを現場で検証すること。 計画時の目的と乖離があった、他の目的外の効果もあったという報告があれば、次の事業に繋がる。 小公園の利用状況は。道路利用者のための公園なのか疑問である。	事後評価結果を道路整備10箇年戦略やローカルルール策定に反映していきます。 、整備後の交通状況を十分検討のうえ、整備の目的を明確にし、整備計画の策定に努めます。 今後、小公園整備を行う場合、地域住民や道路利用者の参画による計画づくりに努めます。